

2015/10/29 例会 卓話

＜地区ロータリー希望の風奨学金支援特別委員会委員長・松坂順一様＞

皆様こんばんは。今ご紹介いただきました東京葛飾東ロータリークラブ所属の松坂順一です。本日は「ロータリー希望の風奨学金」の卓話にお招きいただきまして、本当にありがとうございます。今年度は鈴木喬ガバナーの命令で、2580 地区に特別委員会というかたちで「ロータリー希望の風奨学金支援特別委員会」というものを設けていただき、その委員長をさせていただいております。

皆さんの記憶にまだ新しいかと思いますが、2011年3月11日午後2時46分、東日本大震災が発生いたしました。今まで1968年十勝沖地震があり、私は青森県八戸の生まれなので、マグニチュード7.9で立ってられなかったことを記憶しております。そのとき以上にすごい揺れだなということを感じております。

このとき、被災した地区は北海道から千葉まで広がったのです。ロータリーの地区で言うと2500地区、北海道東部から青森、岩手、宮城、福島、茨城、内陸の栃木も被災地に入っております。千葉まで非常に広い範囲だった。このとき震災のあとすぐにガバナー会が窓口になり義援金を集めたんです。

2010年2011年度のガバナー会ですが、このときガバナー会の中に東日本大震災支援金等委員会を発足させた。委員長は千葉の2790地区ガバナーの織田吉郎ガバナーが委員長になった。最終的に集った義援金は10億3,800万円でした。これは凄い金額だった。こ

まず最初に委員会がやりましたことは、12%を被災地区へお見舞金として差し上げました。北海道の2500地区に800万円、青森に500万円、被害の大きかった岩手、宮城の2520地区には5,000万円、福島に3,000万円、栃木500万円、茨城1,000万円、千葉に1,500万円というかたちで見舞金としてすぐに差し上げています。

残ったお金が8億7,000万円ありましたが、これをどういうふうに使おうかということで委員会の中でいろいろと検討されました。何らかの比率を設定して被災地に配分してそれぞれの地区で個別のプログラムを立ち上げていただくという考えと、オール・ジャパンでプログラムを推進してほしいとか、いろいろな意見があったのです。

即刻全ての義援金を地区に配分して、その全てをロータリアンの救済に使いたいとおっしゃった被災地区のガバナーがいらっしゃったのです。またそれに対して別の被災地区のガバナーが、今ここにある義援金はたいして大きな額ではないので、それを配分してしまうのではなく、将来を担う青少年教育環境改善のために使うべきだ、米百俵の故事をお話しになって奨学生少年の教育環境に使いましょうということを提案された。また他のガバナーがやっぱり配分された義援金を使って地区独自で次世代の育成プログラムに取り組むのは難しいということで、委員会主導で一括してプログラムを立ち上げて欲しいという意見もあったんです。いろいろな意見の中で圧倒的にまとまったのは、義援金を分散することなくロータリーらしい青少年支援の道を探ろうということになりました。

このとき参考にしたのは関東大震災のとき1923年でしたが、日本に東京ロータリークラブができたのは1920年だった。その3年後に関東大震災があって、びっくりしたことに当時、東京ロータリークラブというのは例会を半年に2回か3回しかやらない、集まりの悪いロータリークラブだった。そのあと2年後に大阪にもロータリークラブができ、大阪ロータリークラブは非常に真面目にやっていた。

1923年、関東大震災のときに世界中から今のRIにあたるロータリークラブ連合会をはじめいろいろなクラブから義援金が送られてきたそうです。8万9千ドルだったそうですが、これを当時の東京ロータリークラブが中心になってそれを使った内容を書いているものが東京・横浜消失小学校188校に教材を寄付。孤児院を建設寄付。産科医療医院の再建援助。殉職警察官家族の援助。こういう

ふうなかたちで次世代を担う子供達の救援に向けられていることが大きかったのです。

このことは非常に大きなことで今でもいろいろな資料が残っているのですが、この関東大震災の救済のことを例にして 1995 年の阪神淡路大震災のときも、ロータリー留学生の家の建設やロータリー子供の家建設。マッチド・プランを使って甲子園をやったりしているんです。

そのあとの 2004 年の新潟中越大震災のときも同じように子供達に対して復興支援をやって、ロータリー支援奨学金として年収 300 万円未満家庭の中高生に一人当たり 20 万円差し上げた。こういうふうな青少年のために支援をしてきたことを参考にしている。

新しいプログラムを作ろうとしたときに東日本大震災被災児の教育的支援プログラムを作成しようというときのポイントは、公正であること、建設的であること、温かく心と心の寄り沿わせるプログラムであることを中心に考えてやろうということでした。

それで 2 つのプログラムを考えた。一番目は被災児への教育環境支援。継続性を前提にした被災児を支援しようということで、対象を高校生から短大生、専門学生、大学生まで。それから米山制度を参考に「カウンセラー制度」を置こうということ考えた。もうひとつは「5 for 1 プログラム」で元気なクラブ 5 クラブが被災した 1 クラブを支えていこうという内容です。このふたつのプログラムを中心に考えて、これでやっっていこうと考えたのだそうです。

2011 年 6 月 9 日のガバナー会の資料を見るとこれを行なうためには 24 億 5 千万のお金が必要だと書いてあります。当時集ったのは 10 億、見舞金などで差し上げて 8 億しかない。24 億とすれば 15-6 億足りないということでした。

ロータリーは任期が 6 月いっぱい、7 月からは次の年度で年度替ります。そうすると 2010-2011 年のガバナー会の役割は 6 月末で終わっているんです。次の 2011-2012 年度のガバナー会は日本には 34 地区がありますが、34 地区のガバナーが毎年変わるのです。そのガバナーたちが集っている段階なのです。

2011 年 7 月になってガバナー会が変わりまして、2010-2011 年で立ち上げた委員会の内容が継続事業としてやっっていこうと 2 つの案を出していたのですが、新しい年度に入った途端にガバナー会の方々がちょうど 7 月から各クラブのガバナー公式訪問がありますので、7 月～10 月は非常に忙しい時期なのです。なかなか委員会が立ち上げた内容の検討が進まなかったらしいのです。

最終的には 10 月の時点で残った 8 億 7 千万円の資金を各地区に一度お返しするという事になって戻したのです。その前年度の 2010-2011 年度のガバナー会の有志達がこれでは我々がやった努力が無駄になるということで、もう一度あらたに呼びかけた。そのときに賛同してくれた地区が 34 地区のうち 10 地区あったのです。しかし 10 地区のお金は 3 億ちょっとしかなかった。それでは 2 つのプログラムのうち一番人数の多い高校生の支援のほうは断念せざるを得ない。もうひとつ「5 for 1 プログラム」も難しいだろうと考えたようです。

2010-2011 年度の 10 人の元ガバナーと 2011-2012 年度のガバナーと日台ロータリー親善会議事務総長の 12 名が委員になり、当地区の上野操パストガバナーが委員長として、「ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会」というものを立ち上げているんです。集った地区というのは 2540 地区／秋田、2570 地区／埼玉西部、2580 地区／東京・沖縄、2590 地区／神奈川・横浜・川崎、2630 地区／岐阜・三重、2650 地区／福井・滋賀・京都・奈良、2710 地区／広島・山口、2720 地区／大分・熊本、2760 地区／愛知、2790 地区／千葉という 10 地区が賛同してくれました。そして集った 3 億 600 万円だったのです。これでは高校生までは支援できないだろうということでした。

その当時委員長だったのは上野操パストガバナーで、副委員長が 2710 地区の愛知の田嶋パストガバナーで、もうひとりの副委員長で会計担当が織田さんだったんですが、織田さんがあとで亡く

なっている。そのときはもうすでに病気だったのだらうと思います。今井さんはよく知っている方ですね。

このときに3億600万円しかなかったところに台湾から沢山の義援金をいただいた。その中の一部ですが、向こうでは台日扶輪親善会議というかたちで林士珍さんが理事長をやっていたら、日本では前川昭一さんがその当時、日台ロータリー親善会議の総裁をやっていたら、その時に「ロータリー希望の風奨学金」に1億2,340万円という非常に大きな支援金を提供してくれたんです。これで4億3千万円になり何とかやっていけるんじゃないかということで「ロータリー希望の風奨学金」を立ち上げたのです。

青少年支援連絡協議会というのは2011年10月31日に発足しました。そのときに「ロータリー希望の風奨学金」のプログラムを立ち上げています。11月15日にはホームページを開いています。そのあとに奨学金の内容のことを各被災した県の教育委員会のほうに連絡して、こういうことを始めましたということ連絡差し上げて、そのあと各市町村の教育委員会に流してもらって各学校に紹介してもらっています。

「ロータリー希望の風奨学金」の対象者の条件は奨学生の条件として、東日本大震災で両親もしくは片親を失った「遺児」で大学(短大を含む)または専門学校に学ぶ者とありますが、当時大学に行っている方達も対象に入って、だいぶ在学中の途中からという方も最初はいらっしゃいました。奨学金の給付は入学から卒業まで毎月5万円を継続して給付し、返還を求めない、というかたちです。

申請をする場合は各高等学校とか学校長の推薦が必要ですが、本人もしくは大学・専門学校からの申請、在学する大学・専門学校からの推薦状書類をいただき、書類を私共が確認し、子供さんが入学して在学証明書を提出していただいた時点で給付を開始するというかたちをとっています。

奨学生に対して進級することによって在学証明書を出していただいているんです。一年一年更新していくかたちでやっています。留年とか退学などで在学証明書が更新できないときは奨学金の給付を停止しています。これが結構大きくなっているのでびっくりしているのですが、当時東日本大震災時の進学環境というのは大体三陸から福島までの沿岸が多いのですが、圧倒的に宮城、岩手の方が多いんです。日本の母子家庭の平均年収は大体140万円くらい、日本の月々の仕送りは大学、短大は10万円くらいらしいです。

我々は資金が少なかったもので授業料とか沢山の金は差し上げられなかったのです。幸いなことに「みちのく未来基金」という大きなメーカーさん—カゴメ(株)、カルビー(株)、ロート製薬(株)—とかが立ち上げた。入学金と授業料は「みちのく未来基金」が全部学校に振り込んでくれるのです。この制度があったものですから、我々はお出せる範囲内ということで、生活を支援してあげようということで、月々5万円ということで始めたのです。

あと足りない分は県とか市町村に3万とか5万くらいの奨学金制度があるので、それを利用していただいて、併せれば8万から10万くらいにはなるだろうということなのです。

2011年12月から始まり、2012年3月の時点で最初に応募してくれたのは35名いらっしゃって、35名の方に奨学金を出しました。その間に卒業された方が4名いて、継続された方は31名となっています。年度に区切っていきますが、2015年4月～2015年6月は、新規が42名いて、給付者は延べで110名です。停止が27名もいるのです。この内容はまだ正確にはつかめていないのですが、多分落第したか退学したか、正確にはわかっていません。停止という数が非常に多いので、この辺の事情をもうちょっと調べてみないといけないと思っています。今までトータルでは228名、延べで577名です。

各県別に見ると岩手県の子供さんが97名、宮城県が125名、福島県が6名でトータル228名です。これは6月末日の数字です。「みちのく未来基金」のほうの数字を見ると508名になっています

が、もっともっと沢山いらっやるのではないかなと思っています。対象者が、どこかでもれているのではないかと思います。

我々の呼びかけの仕方は教育委員会を通して各高等学校に呼びかけてもらっていますから、どこかでいっていない部分があるのではないかと思います。他の県に出て行った方とか例えば沖縄に行っている方もいますから、そういう方が出ていない可能性があります。

プログラム終了まで7億9,500万円ほど、トータルすると10億2,600万円必要だろうという予測の数字です。現在まではまだ足りないものでして、あと3億2,900万円が6月末現在で必要だろうと思われる金額です。

幸いなことにここ数年間をみていると、毎年8,000万円から9,000万円義援金をいただいています。あと4年から5年以内に目標達成できるかなと思っています。震災から4年たちまして段々、皆さんの記憶が薄れていくのが一番怖いかなと思っています。

「地区別支援金」として分けたものですが、最初、支援してくれる地区が10地区しかなかったものが増えてまいりまして、いろいろな地区に支援していただいています。開始時の支援金が300万円でしたが、その後いただいた義援金が結構多いのです。外国からもいただいています。タイからいただいたり、オーストラリアもあったと思います。

うちの地区が今のところ一番多くて1億4,000万円です。次に多いのが2650地区の京都を中心とした滋賀、福井、奈良が1億3,300万円までいってまして、ここは歴代のガバナーが非常に呼びかけるものですから、各クラブから非常に沢山の義援金をいただいております。1年のうちに1,000万円とか500万円とか、多いときには3,000万円を地区単位で振り込んでくるのです。去年ガバナーが東大寺の元トップの方で、各クラブに呼びかけてくれて2,000万円がボンと入ってきました。多分今年度が終わった時点でうちの地区は京都地区に抜かれているだろうと思います。2650地区の会員人数が多いのもありますが、気合の入れ方がすごいのです。

米山の寄付もここが非常に多いところなのです。米山にも力が入っている地区です。米山も2580地区から始まりましたが、他の地区にとっくに抜かれています。お金集めはここがすごいかなと思っています。どんどん支援してくれる地区が増えてきています。いろいろな地区からいただいています。数字はあとでゆっくり眺めてください。

「ロータリー希望の風」のことは「ロータリーの友」に毎年載せています。今年は9月号に載せています。28ページから31ページですが、一番初めは2012年8月号で、ここから今までに5回載せています。詳しく知りたい方は過去の「ロータリーの友」で見ることが出来ますので興味のある方は見てください。

立ち上げた時のガバナーの方達は非常にご苦労されてこういう仕組みを作ったのです。一番感心したところは経費20数万から30万円くらいで、あまりかけていない。通信費がほとんどです。奨学生に対するお金の振り込みは千葉銀行がゼロ円でやってくれているのです。最初、織田さんという方が銚子ロータリーの方でその方が会計をやったときに、千葉銀行さんにいろいろと交渉して、ただでやってもらったかたちをとったらしく、振り込みとかただです。東日本大震災に関する我々が振り込むときも確か各銀行さんは送料は取らないんです。このための寄付だよ、という銀行さんは送料を取らないはずですから、振り込んでくださる方はそういうふうにおっしゃってください。

「ロータリー希望の風」のお金を振り込むときはホームページの中の振り込んだ内容を書いてそれを送っていただかないと受け取った者がわかりにくいものですからそのあたり送付書がありますので、それに書き込んで送っていただければと思います。

立ち上げたときから非常に苦労されてこういう制度を始めたときに、米山奨学金の制度は確か非常に経費が大きいのですが、そういうかたちはとらないで、なるべく経費をかけないでやろうということ

です。うちの地区のガバナー事務所が本部になっていてそこに連絡がくるようになっていきます。

当時上野さんが委員長になられていましたから、上野さんがあっちこっち行ってお話していました。日台親善会議の3回目が京都で行なわれたときには、京都へ行って台湾の方達にお礼を言っていました。一昨年は台湾で日台親善会議があったときもお礼を述べていましたし、台湾からの1億2,340万円の支援は非常に助かったので、日台親善会議には何があっても行かなければいけないと言っています。

よく言われるのは、法人化したらどうかと言われますが、そうしないで手弁当でやっています。今、東日本大震災支援連絡協議会というのは全国に広がっています。今、委員長さんが秋田の千葉さんという方が委員長をやっており、今井さんと私も委員として中に入って手伝っていますが、東京が中心になってやるよということで、二人であっち行ったりこっち行ったりしてやっています。この活動を理解していただくのはなかなか難しいなと思います。

よその地区へ行って名刺交換をしたときに「ロータリー希望の風」って何？と言われることが結構あります。さきほど『ロータリーの友』に5回載ったと言いましたが、行って何？と言われると、『ロータリーの友』を読まれていないんだなと思いました。

一番ショックだったのは、去年の鈴木孝雄ガバナーの年度のときに三陸に視察に行こうということで行ったときに、仙台で塩釜、松島、七里ガ浜のロータリークラブとの交流を持ったときに「ロータリー希望の風」ってなんだと言われたのが非常にショックでした。その後に気仙沼に行ってもそうで、釜石でも言われました。伝わっていないんですね。一番奨学金を受けている子供さんは岩手、宮城がダントツに多くて福島なんか数人しかいないんですが、その一番多い地区に行ってその地区のロータリアンに知らないと言われてショックでした。いろいろと理由があるのですが、そのへんの活動がきちんと伝わっていないのが非常に残念だと思います。なるべく伝わるようにもっと活動をしなればと思っております。何かご質問はありますか？

(質問) アピールのような活動はやっていらっしゃるのですか？

毎年7月1日というのはガバナー会があります。古い人から新しい人になるまで、7月1日にガバナー会の集合があってPRしてもらおうことにしています。ガバナーに話をしてガバナーが地区に帰ったら地区にどんどん話してくださいと言ってはいるのですが、やはりその地区のガバナーによってはあまり関心を示さない方もいらっしゃるの地区へ行っても言わないという方も多いようです。ばらつきは非常にあります。最初スタートしたのが10地区だったのが徐々に増えてきてクラブ単位、個人単位で寄付してくれるケースが増えてきているのは確かなのです。今でも一番多いのは2650地区の京都、奈良、あと千葉の地区、埼玉の西側の地区も非常に熱心です。極端な差はよくわからないんですが、強制的というわけにはいかないの、徐々に関心を持っていただくことしかできないんですが。

鈴木喬ガバナーが地区の外に行き活動して来いと言われた。うちの地区はガバナーが呼びかけてくれていますので、数クラブからきちんと周年行事のときに支援金としていただくことが多いんです。

このあと東京の震災があった場合とか東海に地震があった場合とか、こういうふうにご子供達を支援しなければいけない状態が起きると思うのです。その時のために今の「希望の風奨学金」をしっかりとしたかたちでそういうときにサッと使えるようなシステムにしたいなと思っています。この先なるべく経費をかけないでやっていくのは非常に難しいと思っております。

今、委員会では幟、旗を作っています。いろいろな会合のときに支援をお願いするときの目印にして使わせていただこうかなと思っています。去年埼玉の2箇所に出させていただいたときに支援金の寄付の箱をガバナー補佐が作って各クラブに配っていました。埼玉西部は非常に熱心に寄付してい

ただいております。回数が多いのです。細かく回数を振り込んでくれています。

いつでもご質問いただければお答えします。長い時間ありがとうございました。(終わり)

<閉会点鐘・黒岩会長>

今日は、松坂さんどうもありがとうございました。ご存知の方は多いと思いますが、松坂さんは丁度1年前、我々のクラブが産声をあげようとする非常にメンバーの集りも悪い時期、そして地区内ではなんだかんだと小姑が出るときに、松坂さんがまずお忍びでお越しになり、いろんなお話をされて元気をいただいたことを覚えております。

その前に今井さんも微笑みを私共のクラブに来ていただきまして、これは投げ出すわけにはいかないと思うようになったのは、去年の今頃だったと思います。

クラブの会長、ガバナー補佐、そして去年は増強委員会の委員もされまして、今年はまだ地区の大役ということで、今井さん、松坂さん、このラインは非常に良心的な正義のメンバーのラインであると私は心強く思うわけであります。

ちょっとあとでお越しになったのは沖縄の石川パストガバナーだったのです。あの時期、世間も捨てたものじゃないなと思ったのは、この3名でございます。

これからは奉仕の事業を考えますときにはこれからのリーダーシップは、松坂さんのような方です。選挙も近いのですね、次年度のガバナーノミニーマの選挙が近い。ぜひともこの松坂さんのような人格の方が是非当選していただいて、我々を指導していただけたら本当にありがたいと思うのは私だけではないと思います。

そういう松坂さんの今後の御活躍を心よりお祈りしまして、第30回目の例会を終了させていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。(終わり)